



NST No.13

編集/阿部 裕子 岡本 智子
 香取 幸夫 近藤 健男
 斉藤 真紀子 仙石 美枝子
 日野 美代子 舟山 裕士
 宮田 剛
 発行/東北大学病院NST広報係
 TEL.7120 FAX.7147 TUH

NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM

MEセンター ~経腸栄養用ポンプの一元管理をはじめました~

2003年10月NSTが発足以来、栄養に関連した様々なことに関わり、院内の状況の把握にも努めてきました。NSTとしては、経腸栄養の必要な患者様で厳密な投与量の完遂また下痢・腹痛などの腹部症状回避の目的による精密な滴下が望まれます。

経腸栄養ポンプが2004年5月にはポンプのデモを情報提供の研修会を行い、また現在での主な使用機種であるニュートロマットの製造中止の環境変化も加速しNSTとしてMEセンターでの一元管理をし、少ない機種の有効利用、まとめ買いもしくはリースによる効率的な運用を提案してきました。この度、ついにMEセンターにて経腸栄養用ポンプの一元管理をはじめることになりました。どうぞ有効にご利用下さい。



(文責:看護部 斉藤 真紀子)

ついに完成! 栄養管理システム

より簡便に、しかも定量的に栄養状態を評価できるようになります!

平成18年5月1日の診療報酬改訂に伴い、栄養管理をきちんと実施することが保険点数となって評価されるようになりました。当院でも栄養管理計画書を紙情報として運用していましたが、この度、MITセンターから東北大学病院オリジナルの栄養管理システムがリリースされました。

3月1日より診療支援上で栄養管理システム運用が開始されます。このシステムで、簡便に栄養評価し、より適正な栄養療法がなされることで患者さまのQOLだけでなく、原疾患も改善が早まることを期待します。



(文責:MIT副部長 國井 重男)

憶えてください栄養管理システムに必要な栄養指標

"CONUT値"

従来、栄養評価としてはAlbが重要視されていましたが、体液移動などの影響も受けるため、近年、アルブミン、末梢血総リンパ球数、総コレステロールの測定値をスコア化し、下表に基づいてCONUT (CONtrolling NUTritional status) 値を算出し、栄養状態の定量化する手段が提唱されてきています。CONUT値は、蛋白代謝、免疫能、脂質代謝という3つの指標を反映した値であり、栄養評価における臨床検査値からのアプローチとして有用性が高いと思われます。また医療施設において一般的に測定されている項目から算出できる点も大きなメリットです。入院時の検査オーダーにアルブミン・総リンパ球数・総コレステロールを必ず入れましょう。オーダーすると今回リリースされる栄養管理システムでは、自動的にCONUT値が算出されて栄養評価がなされます。逆に言うと、オーダー項目が不足していると自動的な栄養評価はされませんのでご注意ください。

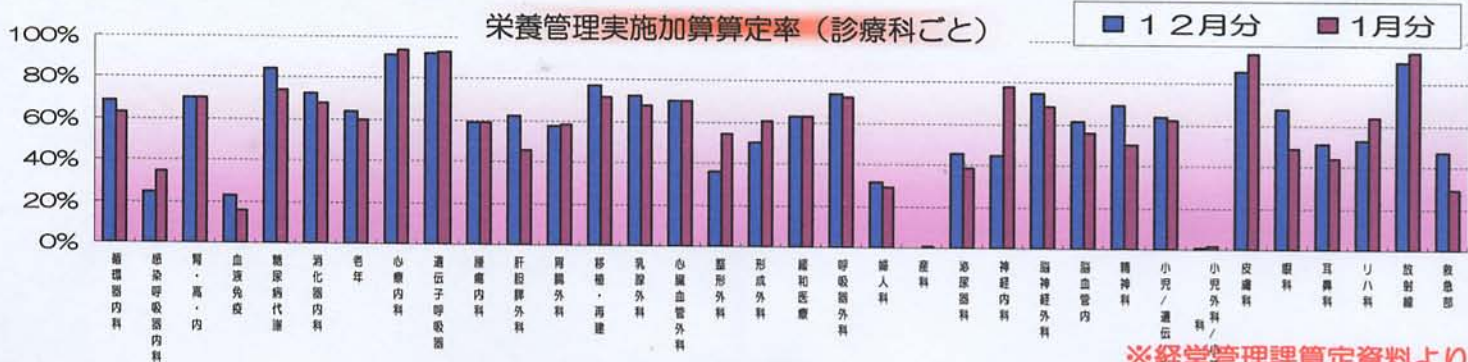
《CONUT値 算出表》

	正常	軽度異常	中等度異常	高度異常
アルブミン (Alb)	≥3.50 【0】	3.00~3.49 【2】	2.50~2.99 【4】	<2.50 【6】
総リンパ球数 (TLC) (/ml)	≥1600 【0】	1200~1599 【1】	800~1199 【2】	<800 【3】
総コレステロール (T-cho) (mg/dl)	≥180 【0】	140~179 【1】	100~139 【2】	<100 【3】

栄養不良レベル (CONUT値)	正常	軽度	中度	高度
	【0~1】	【2~4】	【5~8】	【>8】



(文責:検査部 阿部 裕子 鈴木千恵)



※経営管理課算定資料より